

あいさつ運動を通して児童生徒の主体的な活動を推進する

ねがい

〈目的〉

進んで行動し、自らを高める児童生徒を育てるために、人とかかわる喜びを実感できる体験を大切にしながら、小中が連携して、あいさつ運動を行うことにしました。

〈内容〉

つながり

● 小中が連携したあいさつ運動（やまだグリーティングプロジェクト）

23年度より、校区の小学校の児童会と中学校の生徒会が連携し、「あいさつで地域をつなげる」を合言葉に、小・中学校が同じ期間に同じのぼりを持って「あいさつ運動」を行っています。あいさつ運動は「やまだグリーティングプロジェクト（通称「やまグリ」）と名付けられ、各小・中学校で、運動を推進する標語とキャラクターを作成し、のぼりのデザインにもなっています。

今年度は、各学校のPTAの方々や地域の方々、教職員の協力で、各学校のキャラクターの着ぐるみがすべて完成し、あいさつ運動だけでなく、地域の行事にもキャラクターが参加して、地域を盛り上げています。

あいさつ運動期間中は、中学生が出身校の小学校に出向き、小学生と一緒にあいさつ運動を行ったり、各小学校区では、青少年の健全育成にかかわっている方々も参加したりして、小・中学校間や地域との交流を深めています。



【あいさつ運動をしている様子】

● 児童会・生徒会による連携協議会の開催（やまグリ子どもミーティング）

あいさつ運動を盛り上げていく目的で、校区の児童会と生徒会役員が集まり、各学校のあいさつ運動の取組の発表と今後のあいさつ運動についての話し合いを行いました。

話し合いでは、たすきや缶バッジ、シールや賞状などの作成など各学校であいさつ運動を盛り上げる特色ある取組が紹介されました。また、あいさつ運動以外でも小・中学校が1つになってできることはないかという提案がされ、小・中学生合同でボランティア活動をしたい、部活動や水泳・陸上練習での小・中学校での交流を行いたいなど、これからの小・中学校の連携をさらに深める意見がたくさん出ました。この会で出された意見はこれからの会議で具体的に計画を立てていく予定です。



【やまグリ子どもミーティングの様子】

〈成果〉

こうした取組を通して、児童生徒はより地域の一員であるという自覚と、人とかかわる喜びを実感しながら、進んで自分自身、人のために行動している姿が多く見られるようになってきました。それが、中1ギャップの解消や、各小学校でのボランティア活動、いじめゼロの取組、異学年・縦割り活動の成果にもつながってきています。

今後も、一層効果的な取組となるよう、「やまグリ子どもミーティング」を通して、児童生徒が主体となる活動を行っていきたいと考えています。

高まり